

小学生の部

【社会を明るくする運動可児地区推進委員会 会長賞（可児市長賞）】

可児市立春里小学校 6年 末木 美遥（すえき みのり）

「一つの家族のように」

私の家は、おばあちゃんの家近くにあります。夜ご飯は、多い時は十人、夏休みなどの時はいとこ達も来るので、全員で十四人という大人数で、おばあちゃん家で食べています。家族が多いとにぎやかで楽しいけれど、そのぶんいやな事もあります。例えば、いつもは優しいおばあちゃんが、イライラしていて、ちょっとしたことでも怒り、暗い気持ちになってしまったり、お父さんが仕事から帰ってきて、私が返事をしないと、やけにしつこく、怒ってきたりすることがあります。私は、「何でいつもはもっと優しいのに、今日はこんなにイライラしてるんだろう？」と思いつつ聞き流していました。そして、大体その後には、お母さんに

「つかれてるんだわ。そっとしておいてあげやあ。」

と言われるんです。最初のうちは何となくその通りにしていましたが、今はなぜそう言われたか分かります。「怒りの奥には悲しみがある」それは、お母さんから聞いたこの言葉のおかげです。お母さんはこの言葉を新聞で読んだそうです。おばあちゃんはりウマチをわずらっていて、その辛さからイライラしていたんだと思うし、お父さんは仕事で何か嫌な事があった、それで怒りっぽくなっていったんだと思います。だから、「そっとしておいて」とお母さんは言ったのでしょう。そういえば、お母さんがお父さんの会社のぐちを聞いてあげていた時の様子を思い出すと、お父さんは話す前よりも話した後の方がすっきりしていたようでした。

今の世の中には、色々な理由でストレスをかかえている人がたくさんいると思います。例えば会社や学校での人間関係に不満を持ったり、周りに自分の話を聞いてくれる人がいなかったりすることも、ストレスの原因になると思います。いじめについても、いじめをする人達は、自分よりも弱い人をいじめること、ストレスを発散しているんだと思います。また、自分よりも成績が高い人とか、やさしくて、周りから親われやすい人を苦しめることによって、自分よりも強いストレスを味合わせようとしているのではないのでしょうか。

うちの家族を見ていると、辛い時、悲しい時に家族に対して怒りっぽくなったり、八つ当たりをしたりしているように感じます。これは、ストレスがたまってきたり、

という、家族からのSOSなだと思えます。そのSOSを受け止めてくれる人がそばにいれば、その人のストレスは少しずつ消えていって、前向きな気持ちに切り変えることができるのではないのでしょうか。うちの家族は大勢で、最初に書いたようにしよっ中ケンカもするけど、その時、相手の立場に立って、相手の気持ちを分かろうとすることが大事だと思います。それがちゃんと出来ている時には、元の仲良し家族に戻る事が出来ています。

いじめや犯罪も、きっとその人から発せられるSOSです。もし誰かがそのSOSを受け止めてあげたら、その奥にある悲しみやストレスに気づいてあげられたら、いじめや犯罪は、減っていくと思います。それは、誰でも良いのです。自分のそばにいてくれる、いつでもなぐさめてくれる、そんな人達が近くにいるだけで、犯罪や非行などは、きっと、減っていくものだと思います。

私は、孤独な人がいない、みんなが一つの家族のように、支え合える世の中になると良いと思います。

【可児保護区保護司会 会長賞】

可児市立春里小学校 6年 西井 涼(にしい りょう)

「地域で作る安全」

「なんでこんなことが起きてしまったのだろう」テレビでひどい事件が流れる度にぼくは心が痛む。最近テレビでは、人が亡くなるような事件がよく流れている。

ぼくの住む町、可児はどうだろうか。そんな事件があったとは、聞いたことがない。地域のみなさんは、笑顔でぼくたちを見てくれる。その笑顔が、地域の優しさにつながっているのではないだろうか。それは、地域で子どもたちを守る、という考えだとぼくは思う。

その考えの一つとして、スクールサポーターのみなさんがいる。スクールサポーターの方々は、ぼくたちの安全を守ってくれる。登下校のときは通学路の決まった所で、安全な登下校をサポートしてくださる。ぼくと友達に登校をしていると、サポーターの方が、

「おはよう、学校は楽しい。」

と話しかけてくれた。ぼくが、

「おはようございます、学校は、楽しいです。」

と答えると、その方は、

「そうか、そうか。」

と笑ってくれた。ぼくは、何か優しい気持ちで、学校に向かった。こんな日常だからこそ、こわいことがあったとしても、ためらわずに状況を伝えることができるのだと思う。

もう一つの考えとして鍵を握っているのは「あいさつ」だ。あいさつは、地域の優しさにつながっているとぼくは思う。この地域には、あいさつが飛びかっている。家族、友達、地域の人、だれとでもあいさつを交わす。こうして、ぼくは可児中のみなさんにつながっている。こんなにあいさつが飛びかかって、可児中のみなさんにつながれるのはなぜだろう。それは地域のみんなが楽しめる行事が多いからだと思っ。その中でも多くの人が集まるのが「市民運動会」そして地区ごとの「祭り」だ。市民運動会とは、学区内に住む沢山の人たちが集まって運動会をするのだ。勝っても負けても、みんな笑顔で、地域の輪が広がっていく。地区ごとの祭りも、いろんな世代の

方々が会う度にあいさつをしてくれる。もし、危ない目にあってしまったとしてもすぐに助けてくれる。こんなことをしてもらえると、痛みやかなしさが消えていく。声をかけてくれた人には「ありがとう」の気持ちで心がいっぱいになる。そして、会場一体が温かい雰囲気で包まれていく。

ぼくたちの地域は、優しさであふれている。それは、自分の損得を考えずに助けられる気持ち、お互いに楽しんだり励まし合ったりする精神から、地域全体でつくり上げているものだと思う。可児という自分たちの地域を、明るくし、守っていくという意識は、この精神がある限りつながっていくとぼくは思う。ぼくは、この可児を守っていくという思いが、ずっと続いていくと欲しいと願っている。また、ぼくも可児で暮らす、一人の人間として、困っている人を助けたり、みんな協力して楽しみ合ったりすることを続け、明るい社会を築き上げる一員になりたい

小学生の部

【可児地区更生保護女性の会 会長賞】

可児市立東明小学校 6年 板津 志保（いたづ しほ）

「みんなでつくる町」

私は、環境をきれいにするために、月に一度ごみボランティア（ごみボラ）に参加しています。このボランティアは、地域の人達と一緒に地域を歩いてごみ拾いをするというボランティアです。私がこのボランティアに参加している理由は、2つあります。

一つ目は、地域のためです。自分達がごみを拾うことで、地域の人達が暮らしやすくなり、安心できるかなと思いいこのボランティアに参加しています。

二つ目は、自分のためです。このボランティアに参加することで、自分の成長にもつながるし、これからの人生でも積極的にボランティアに参加できると思うからです。もともとこのボランティアは、私のお父さんが開いていて、そこに私が参加しています。

私がこのボランティアでがんばっていることは、地域の人達がとくに歩きそうなところをごみ一つ無しにすることです。ただごみ拾いをするだけだと、小さくて気づかないごみや、地面の色と似ていて気づかないことなどもあります。だから、私は、なるべくごみ一つ無しにできるように、目をこにしてごみ拾いをしています。

私がこのごみボランティアをしていてうれしかったことは、地域の人達の声です。私がいつものようにごみ拾いをしていけると地域の人が、

「毎月、毎月きれいにしてくれてありがとう。本当に助かります。」
や

「ごみ拾いしてるの？すごいねえ。がんばってね。」

などの温かい声をいただきます。このような声をかけていただくと、

「このボランティアをして良かった。これからもがんばろう。」
という気持ちになります。なので、これからもこのボランティアを続けて、中学生になっても続けて、地域の人達のためにも自分自身のためにもごみボランティアを続けていきたいです。

私は、このボランティアをしていて、思ったことがあります。それは、自分の町は、だれかがつくっていくのではなく、みんなでつくるものということです。なぜこう思

ったのかというと、ボランティアをしている人は、地域の人に声をかけていただいて希望をもつ、これは、ボランティアをする人じゃなく、地域の人に支えをもらってボランティアが続いていきます。だから、自分の町はみんなで作るものだと思いますた。

私は、ボランティア活動をしている方々に自分の町は、だれかがつくっていくのではなく、みんなで作っていくものだということを、伝えていけたらなと思いました。これからもこのボランティアを続けて、みんなで作る町をつくっていききたいです。